



2023年6月19日

株式会社立花商店 生田 渉

## (新) 週刊カカオニュース第77号

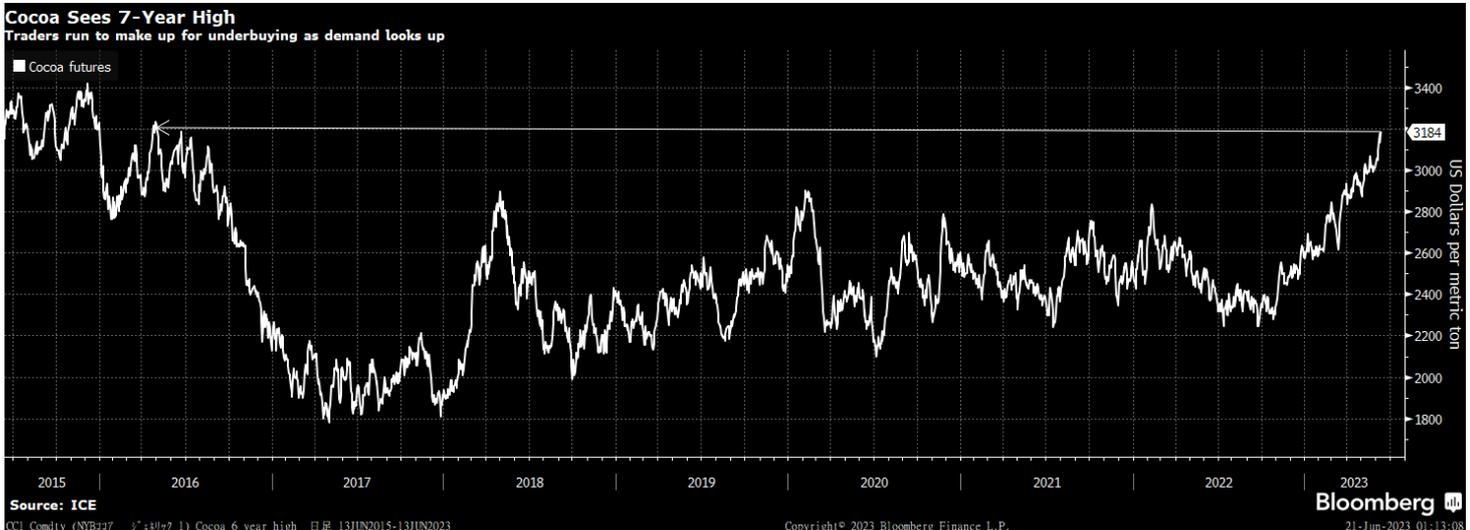
毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。今週のカカオニュースを配信させていただきます。

### 1. カカオ先物は7年ぶりの高値、チョコレートメーカーが原料補充を急ぐ(6/14)

- ・ ポジティブな米国市場でのマクロの見通しは、消費低需要への賭けに逆行。
- ・ チョコレートメーカー等の買い手が市場に戻るのを急ぐため、現物のカバーが不足している感がある。

チョコレートメーカーの買い控えに直面しながらも、ニューヨークのココア先物価格は2016年以来の高値水準まで上昇した。

2022-2023年産カカオ需給が不足となった事でカカオの価格上昇が負担となっている各メーカーは、消費者需要を抑制する可能性があるだろうと、今後の先行きの方向性は不景気な環境に賭けていた。しかし、米国経済の見通しがより楽観的になるにつれ、原料調達に慎重で低下カバーだったバイヤーたちが、その埋め合わせを急ぐようになった。



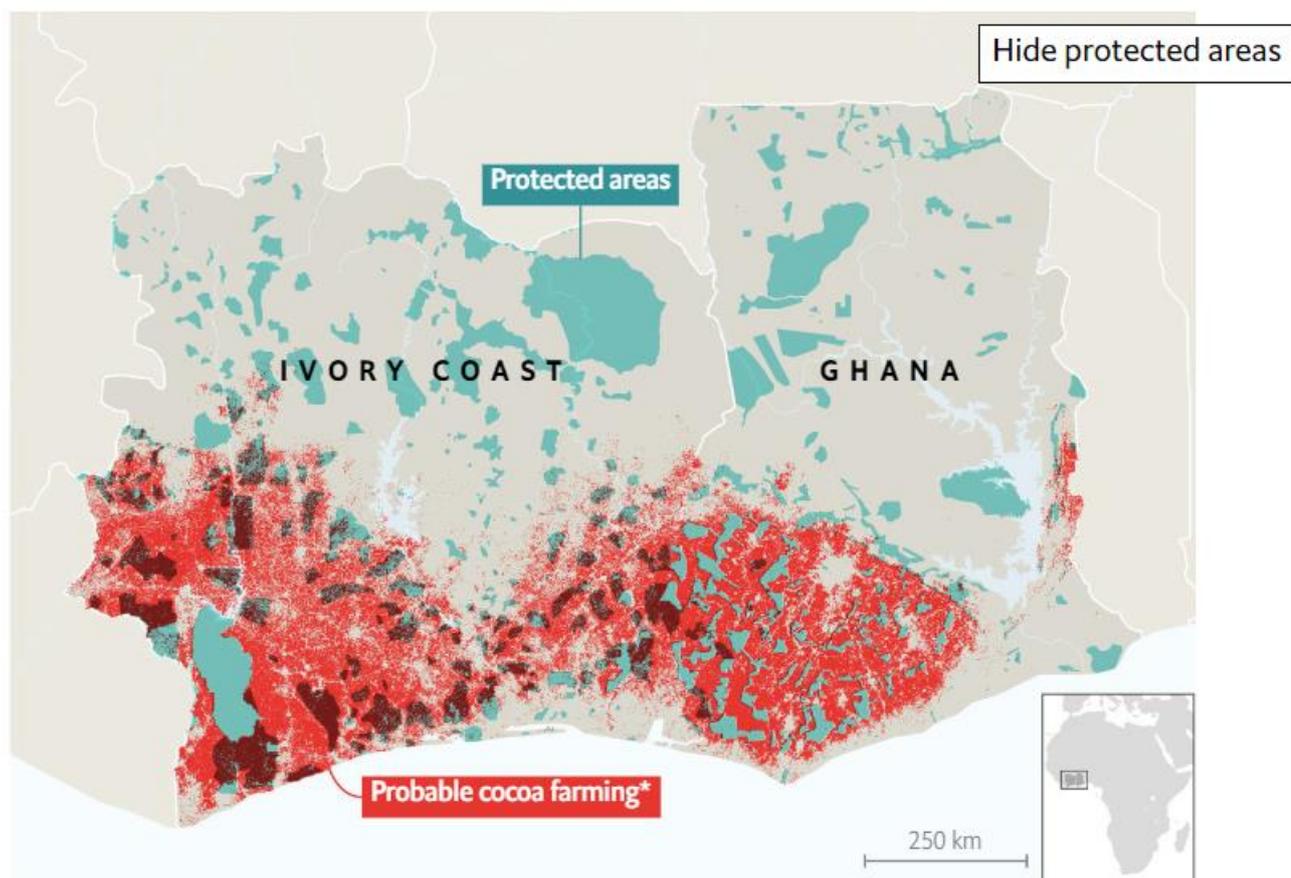
NickJen Capital management のパートナーである Nick Gentile 氏によると、メーカーは通常9~11ヶ月の現物カバーを持つことを目標としているが、ニューヨーク市場とロンドン市場の分析では実需筋は現在5ヶ月程度の価格しかカバー出来ていないと分析。チョコレートの需要が堅調に推移する中、買い控えの不安が新たな契約関係を市場にもたらす可能性があると同氏は述べています。

「新たなファンドの買いと、タオルを投げて買いを入れるチョコメーカーの組み合わせです」と同氏は付け加えます。

## 2. チョコレートの需要は、人々が思っている以上に違法な森林破壊を引き起こしている。 (6/2Economist 誌より)

カカオのサプライチェーンは、高級チョコレートのように複雑で不透明で、少しナッツのような味いです。主に西アフリカの農家は、収穫したカカオを現地の仲介業者に販売し、その仲介業者が輸出業者に販売する。輸出業者は、ヨーロッパにあるチョコレートメーカーやトレーダーに販売し、そのトレーダーはロンドンやニューヨークの投資家に支えられている。

このような複雑な仕組みのため、農家はチョコレートバーの小売価格の5%程度しか受け取れないことが多い。また、このような甘いお菓子の生産における不愉快な習慣を追跡することも難しくなっています。児童労働や強制労働が横行し、違法な木の伐採も行われています。『Nature Food』誌に掲載された最新の論文によると、これらの害の一部は、これまで考えられていたよりも深刻である可能性があるとのこと。公式の数字では、西アフリカのカカオ農園の数は過小評価されており、そのため、カカオ産業が森林破壊に与える影響も過小評価されています。



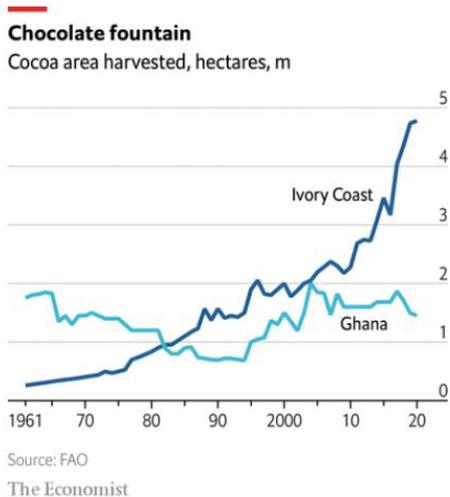
Sources: IUCN; "Satellite-based high-resolution maps of cocoa planted area for Côte d'Ivoire and Ghana", by N. Kalischek et al., 2023; UNEP-WCMC

\*Measured in Oct 2018-Dec 2021

スイス連邦工科大学チューリッヒ校の Nikolai Kalischek 教授らは、世界のカカオの3分の2を生産するコートジボワールとガーナで、カカオ栽培による森林破壊を地図化することに着手しました。このマップを作成するために、特定のカカオ農園の既知の位置に関するデータと高解像度の衛星画像を組み合わせました。このデータをもとに、地図上の各場所がカカオ農園である可能性を予測するコンピューターモデルを学習させました。そして、ガーナの地図に一部手書きでラベルを付けたものや、コートジボワールの現地調査と比較し、その結果を確認しました。その結果、ほぼ90%の確率で正確な地図が完成しました。

その結果、カカオ農園はコートジボワールの国土面積の13.8%、ガーナの11.4%（それぞれ445万ヘクタール、271万ヘクタール）を占めていることがわかりました。コートジボワールについては、国連食糧農業機関

の数値とほぼ一致しているが、ガーナについては、新しい方法による推定値は、これまで考えられていたよりも70%近く高い数値となっている。



また、コートジボワールでは30%、ガーナでは7%の農家が、本来保護されるべき森林の上に植えられていることがわかった。伐採されたばかりの森林は土壌が肥沃であるため、短期的に高い収量を得ることができる。例えば、ガーナのタノ・エフロやマンザンの森林保護区では、その半分から4分の3の面積で違法なカカオ栽培が行われている。2000年以降、カカオの栽培がコートジボワールの保護区で37%以上、ガーナの保護区で13%以上の森林破壊を引き起こしていることを、研究者は地図を使って明らかにしました。コートジボワールは1950年以降に90%以上、ガーナは65%以上の森林を失ったと考えられている。

### アフリカ両国のカカオの栽培面積

横軸：年数 縦軸：百万ヘクタール

カカオの生産は、1900年代に欧米のチョコフィーバーで爆発的に増え、その後も増え続けています。(理論的には、政府や企業はカカオによる森林破壊を食い止めようと、農家に木を切らないようなインセンティブを与えたり、より厳しい規制をかけたりしてきました。しかし、残念ながら、カカオによる森林破壊を食い止めるには至っていないようです。

### 3. ICE、EU 森林伐採法への対応を支援するサービスの提供を開始(6/15)

ICE Benchmark Administration Ltd. は、カカオとコーヒー業界がEUの新しい森林破壊法の要件を満たすのを支援するトレーサビリティサービスを開始する予定だと、インターコンチネンタル取引所が声明で明らかにした。

ICE Commodity Traceability (ICoT) サービスは、顧客が取引を行う際に、売り手からサプライチェーンのデータを受け取り、確認できるように設計されている。

IBAは、2024年12月30日に規制が適用されるのに先立ち、2024年にサービスを開始することを想定しているICE Soft Commodity OperationsのシニアディレクターであるToby Brandonによると、標準化された単一のプラットフォームは、森林破壊規制で必要とされる農家の位置情報とトレーサビリティデータを提供します。このデータは独立して検証され、カカオとコーヒーが容易に取引され、EU市場に置かれるようになります。IBAのClive de Ruig会長は、「ICoTは、サプライチェーンのデータを照合、標準化、検証することで、顧客が農場からヨーロッパの消費者製品までのコンプライアンスを実証するのを支援します」と述べています。

### 4. アフリカ・カカオ UPDATE：コートジボワール西部で洪水が発生し、港へのアクセスが遮断される(6/13)

- ・コートジボワールの生産者の中には、農作業ができなくなった人もいる。
- ・ナイジェリアでは農薬などの化学物質の価格が高騰

コートジボワール西部で洪水が発生し、トラック運転手が輸出用のカカオ豆を同国の主要港に運ぶことが困難になっている。

ギトリーという町の生産者、ウスマン・サワドゴ氏は「トラックはアビジャン港に行くのに苦労している」と語った。

また、天候の影響で生産者が農場にアクセスすることができなくなっています。「道路は通れない」とサンペドロの生産者、ムーサ・ティエンドルベオゴは言う。

10月1日に始まったカカオのシーズンは、天候不順のために遅いスタートとなった。同国の規制当局のトップは先週、収穫が回復するとの見通しを示し、全体の生産量は200万~220万トンになると予想した。しかし、リスクは依然として高く、ブルームバーグ・インテリジェンスは、エルニーニョ現象の強まりもあり、同国で進行中のミッドクropp（年2回の収穫のうち小さい方）は、通常より10%も低くなる可能性があると予想している。

カメルーンの南西部では、商業の中心地であるドゥアラ近郊のカカオ生産者、Dieudonne Sango氏は、雨によって新しい苗が流されてしまったと述べています。一方、ガーナとナイジェリアの生産者は、太陽と雨が混在し、全体的に好天に恵まれたと報告しています。

しかし、農薬などの化学薬品の高騰が、ナイジェリアの生産者の収益を圧迫しています。

ナイジェリア南東部でカカオ農場を営むサイナ・リマは、「化学薬品の価格は、わずか6週間余りで2倍以上になっている」と語った。

## 5. コートジボワール、カカオの磨砕能力向上を目指す(6/15)

国営放送 Radiodiffusion Television Ivoirienne (RTI) の水曜日のレポートによると、コートジボワールはカカオ豆の磨砕能力の向上を目指している。

同国の農業大臣 Kobenan Kouassi Adjoumani は、RTI の取材に対し、多くの加工工場の建設プロジェクトが進行していることから、同国のカカオ磨砕能力は2022年の97万2000トンから中期的には117万6040トンに達すると述べています。

カカオの粉砕能力は、706,000トンであった2017年から着実に増加していると Adjoumani は述べています。現在、同国には12社の大規模磨砕工場と14の中規模加工工場があります。

Adjoumani氏は、加工することでカカオに付加価値がつくため、輸出する前にカカオの粉砕を続けるよう取引業者に促しました。

世界有数のカカオ生産国であるコートジボワールは、政府のデータによると、終了したばかりの2022-23年シーズンの収穫量は、前シーズンの220万トンから若干減少して215万トンになった。

## 6. ナイジェリア、2023-24年シーズンのメインクroppカカオの収穫は良好と協会が発表(6/17)

ナイジェリアは、西アフリカの国で進行中の雨季のため、2023-24年シーズンのメインクroppカカオの収穫が良好になる見込みであると、業界幹部が金曜日に述べた。

「5月、6月と雨季に入り、良い雨が降っています。ナイジェリア・ココア協会のムフタウ・アボラリンワ会長は、「雨のテンポが止まらなければ、豊作になるには十分だ」と述べた。

主要作物の収穫は通常9月か10月に始まるが、ナイジェリアのいくつかのカカオ生産州のトレーダーは、「雨と気候が良好なため」8月には最初の収穫が始まると楽観視している。

カカオ生産州では5月から10月までが雨季で、11月から4月までは乾季となり、この間、主なカカオ豆を適切に乾燥させるために十分な日照時間が確保される。

アボラリンワ氏は、2023-24年のシーズンにナイジェリアが生産できるカカオの量について、「まだ早すぎる」として、予測を述べなかった。

## 7. Tony's Chocolonely が 1700 万ポンドを調達。同社の世界的な成長を牽引 (6/19)

エシカル・チョコレートブランドのトニーズ・チョコロンリーは、「カカオ産業における搾取を終わらせるという使命」を加速させるため、2000 万ユーロ（約 32 億円）を調達しました。

オランダの菓子メーカーである同社は、ベルギーの投資会社 Verlinvest とベンチャーキャピタルグループ JamJar を含む既存投資家から資金を調達しました。

同社は、今回の資金調達は「急成長と使命の達成に成功した 1 年」に続くものであると述べています。この資金は、複数の市場における同社の急成長と、企業間の倫理的な豆の調達会社である Tony's Open Chain の成長資金に充てられると述べています。



「より多くのバーや豆が売れば、より多くの豆が生活費として購入され、カカオ生産者の生活により良い影響を与えることができます」と、述べています。

チーフ・ショコロンリー」のダグラス・ラモントは、次のように述べています：「この投資は、カカオ産業における搾取をなくすという私たちの使命に向けた前進を加速させるものです。この資金は、当社のチョコレート事業である『トニーズチョコロンリー』と『トニーズオープンチェーン』の両方で実現しているグローバルな急成長を支えるために使用されます。

「今回の資金調達は、当社の長期的なミッションに賛同してくださる既存の株主の皆様から調達できたことを大変嬉しく思っています。この新たな投資、ガバナンス体制、そして最近導入したミッション・ロックにより、私たちは、カカオ産業における搾取をなくすというミッションの実現に向けて、全面的な集中とコミットメントを続けていきます。このラウンドの一環として、多くの既存株主は、その持分のごく一部を売却します。

今回の資金調達の結果、バーリンベストの議決権比率は 50.1%から 64.2%に上昇し、全体の持ち株比率は 43.1%から 55.9%と過半数を超えることとなります。JamJar は、Innocent Drinks の元創設者である Richard Reed、Katie Marrache、Jon Wright が運営する投資会社で、議決権保有比率は 4.8%から 5.6%に増加しました。前 CEO の Henk Jan Beltman の持ち株会社である Genuine Chocolate は、議決権所有比率を 31.2%から 20.6%に引き下げる予定です。

ベルギーに本拠を置く Verlinvest 社が出資比率を高めるため、この株式売却にはオランダの競争当局の承認が必要となります。同社は、世界最大のチョコレートメーカーが児童労働や現代の奴隷制度を利用している農園からカカオを購入していることを発見し、2005 年に 3 人のオランダ人テレビジャーナリストによって設立されました。同社は、ガーナとコートジボワールのカカオ生産者と直接関係を築き、より高い価格を支払い、現代の奴隷制度や児童労働の根本的な原因の解決に取り組む「模範となる」企業であると述べています。

## 8. カカオ農園への参入を促す若者コミュニティ (6/19)

マレーシア・ココア委員会 (MCB) が今年、全国で 200 ヘクタールのカカオ農園を新たに開発する計画であることを受け、若者コミュニティはカカオ産業への参入の機会をつかむよう奨励されると、副首相 Datuk Seri Fadillah Yusof が述べた。

ファディラ副首相は、機械化と自動化技術の活用に焦点を当てた第 4 次産業革命 (IR4.0) の要望とニーズに沿って、この商品の可能性を拡大するために、訓練を受けた地元の若者が必要であると述べた。

「私たちは IR4.0 に向かって進んでいます... だからこそ、技術的な訓練を受け、ガジェットに強い若者を必要としているのです。そして、私たちはあらゆる技術を駆使して、プランテーションと農業部門を近代化し、業

界のプレーヤーがより高い収益を得られるよう、あらゆる方法で利益を得られるようにしています」と、今日、ここで開催された農産物雇用対話と説明会に出席した後、記者団に会ったとき、彼は述べました。

また、カカオ農園を強化するために、植林・商品省（KPK）は、上流、中流、下流を含むカカオ産業のエコシステムを包括的に研究する予定であると述べました。

「通常、大企業は機械化や自動化に移行するための資金を持っていますが、（小規模）企業や小生産者については、政府からの支援を申請することができ、私たちも支援する用意があります」と述べた。

2023年6月11日、KPKは声明の中で、カカオの新しい200haの植林地は、サバ州で110ha、半島で80ha、サラワク州で10haをカバーすると発表した。

現在、サバ州の3,444ha、サラワク州の1,454ha、半島部の1,087haの合計5,985haがカカオの植林地となっています。

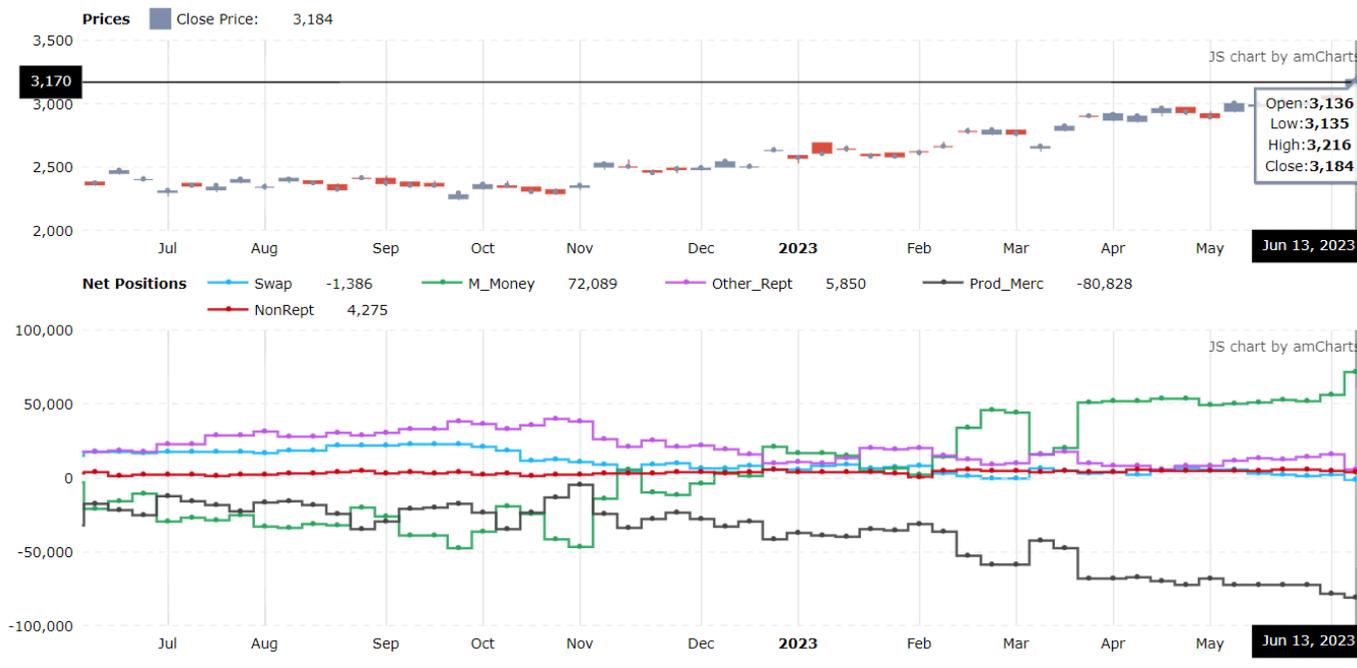
## 9. ファンド勢のNY先物は買い越しポジションが増加し、過去3年で1番の買い越し(6/17)

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋（Managed Money）は今週、買い越し越ポジションを15,989ロット増加させ、73,890ロットとした。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、（今週で言えば、6月13日）の取引が含まれている。

- 純買い数量は過去3年間で一番多い。
- 総買い数量は 12,965ロット増加し、134,097 となり、過去の歴史の中で一番多く買われている。
- 総売り数量は 3,024ロット減少し、60,207ロット となった。
- 総売り数量は、過去5週で一番少ない数字

## 参考分析資料；過去1年のNY市場の実需家VS投機筋のポジションと相場価格

### Prices & Net Positions



黒線・・・カカオ磨砕業者やチョコレート製造会社など実需家

緑・・・ヘッジファンドなどの資金運用者

水色・・・投資銀行などスワップディーラー

## 10. ファンド勢のLDN先物は純買い越しポジションが3週間ぶり高水準。(6/17)

ロンドンのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、先週の買い越しポジションを 234 ロット増やし、94,199 ロットとした。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週の数字で言えば、6月13日)の取引が含まれている。

- 純買いポジションの 94,199 ロットは過去 3 週で最も高い数字。
- 総買い数量は今週 84 ロット増加し、98,950 ロットとなった。
- 総売り数量は今週 150 ロット減少し、4,751 ロットとなり、過去 20 週で最も低い数量

### 参考) ロンドン市場の主要なプレイヤーのポジション状況

#### Commitments of Traders

#### Futures and Options

#### ICE Futures Europe

13/06/2023

MktDate	OI	Producer/Merchant/ Processor/User		Swap Dealers			Managed Money		
		Long	Short	Long	Short	Spreading	Long	Short	Spreading
13/06/2023	461805	188847	287069	33456	44798	41256	98950	4751	25124
<b>Percent of Open Interest Represented by each Category of Trader</b>									
13/06/2023	100%	40.9%	62.2%	7.2%	9.7%	8.9%	21.4%	1.0%	5.4%
<b>Number of Traders in Each Category</b>									
13/06/2023	175	44	43	15	12	15	54	8	20

## 11. 新商品情報: 「カカオフルーツ」を使用したゴディバのアイス「カカオフルーツ ピーチ」

ゴディバ ジャパン株式会社(東京都港区)は、上質なチョコレートと厳選した素材で作り上げた、ゴディバの「カップアイス」としては初となる、カカオフルーツアイス「カカオフルーツ ピーチ」を、2023年6月19日(月)より一部のゴディバショップ限定、全国のスーパーマーケットにて順次、数量限定販売いたします。

### ゴディバ カップアイス「カカオフルーツ ピーチ」のこだわり



- ①爽やかな甘味とほんのり酸味が特長のカカオフルーツアイスと甘味のあるピーチアイスを組み合わせました。それぞれでも一緒に食べても爽やかで季節にぴったりの味わいです。
- ②ほんのりビターなチョコソースを混ぜ込んでいます。フルーツとチョコソースの味わいがマッチし、暑い季節にチョコレートを楽しめる仕立てとなっています。
- ③カカオフルーツとピーチのアイス、チョコソースと渦巻状に充填することで、スプーンですくったひと口から、抑揚のある味わいを楽しめます。

\*全文説明および写真は下記プレスリリースより

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000463.000015355.html>

## 今週のつぶやき

昨年の8月よりお休みを頂いておりましたカカオニュース。久しぶりの投稿となりました。

言い訳をさせてください。8月のお盆休みを利用して米国ワシントンに出張した私は、3泊4日だけの滞在予定にも関わらず、現地でコロナになり、その後約3週間ホテル生活を余儀なくされました。ホテル代、毎日のUber Eats代も物価の高いアメリカで恐ろしい事になりましたし、精神的にも缶詰状態で堪えました。症状が回復してからもなかなかPCR検査で陰性が出ず、最終的には医師に健康回復証明のレターを書いてもらい、大使館に申請して承認を頂き帰ってきました。

この予定が変更になったため、次なる出張の予定も変わり、9月初旬のアジアカカオ会議は出席できず、その変わり9月中旬にベトナムに訪問。その後、フランスのサロンドショコラに出店し、その後のギニア共和国へのカカオプロジェクトの出張。丁度その頃（2022年の10月頃）から、ガーナ・コートジボアールの両政府がカカオ産業の改善の為に立ち上げた『コートジボアール・ガーナココアイニシアチブ』の専門家会議のメンバーとしての活動を開始しました。

この組織はカカオ産業の関係者17名が両国のカカオ産業従事者の代表者を中心となり様々な議論を行うものでしたが、我々はその第一の課題であるPrice & Market というテーマについて話しあい、具体的な改善提言を作成する事を目標にしていました。

参加メンバーは、両政府カカオ監督機関（CCC, Cocabodの販売責任者）、チョコレートブランド（ネスレ、マーズ等）、磨砕業者（Barry, Cargill, Olam, GCB, JB COCOA, Blommer chocolate）、トレーダー（Tuton, Ecom, Cocoa source等）、先物取引市場（ICE EU, IDH等国際機関、コンサルタント等）です。会社の規模や取引数量で言えば、私共、立花商店の10倍～50倍以上の企業ばかりで業界に対するインパクトも責任も当然大きく異なります。なぜ日本の中小企業の私がこういうワークチームに入ったのか。

理由は3つくらいあり①参加したいから話を聞かせてくれと依頼した事。②日本（アジア）の意見も入れておいた方が良いぞという私の話が相手にも納得感があった。③最低限（邪魔にはならない程度）には個人として使えそうだという評価を勝ち得たニコトジのことは知らなさそうだけどガーナのカカオには詳しくさうだから入れておくか。程度の評価。

10月末から3月末まで約5か月間にわたり、毎週のWEBでの議論、資料の分析などを行い、2月と3月にはそれぞれガーナと、コートジボアールで合宿会議も行いました。フランス語、英語ネイティブな中で、専門的な言葉も多く、全体に対して貢献することは大変でしたし、日本もこのような場に参加するべきという個人的な思い込みの勢いだけで参加した事を後悔も何回もしました。

ボランティア活動ではあるのに、時差の関係で23時から2時までのWEBで全体会議をこなし、個別の課題も翌週の会議までに調べたりする。頑張ったとて、言葉の壁もあり、また欧州のカカオのプロや先物市場ICEの担当者など様々な中で正確な意味合いが伝わらず、結果、存在感がない事を悔やみ、落ち込む。仕方ないので、とりあえず出来る事をやる。

仕事も暇ではないのに、ガーナとコートジボアールまで打合せの為に訪問する。自社や日本の中というコンフォートゾーンを抜け出して新しい事に挑戦してみる。聞こえはいいがなかなか辛い事でもあります。

中年になってだいぶたちますが、歳をとる事に知らない世界に飛び込むことが怖くなっているんじゃないかという自己否定もありそれを打破する取り組みでもあったと思います。

その活動を通じて、感じた事

- ・世界のカカオの市場は巨大なようで小さくもある。カカオの世界では長くやっていたら多くは、顔見知り。
- ・皆、意見は違うが、本当にカカオの生産者や業界が良くなればと真剣に思っている。このワークチームに参加する前はもう少しビジネス（利益）を追求しているイメージがあったが、サステナブル関連の課題が欧州にとってそれだけ真剣で差し迫った課題であることを感じた。
- ・議論が好きというか、意見が対立しても引かない。議論により良い案を出していく事に慣れている。上手。

・なんだかんだ欧州中心でカカオ業界、特に西アフリカ両国のカカオ産業は方向性が決まっている。ただそれは仕方ない事で、欧州の政府や企業には、両国を動かすに必要な需要、歴史的背景を含めた実務の知識、今後の業界に対するビジョン等がある。残念ながら日本やアジアにはそのレベルの物は携わっていない。（だからと言って悪い事でも卑下することでもありません。我々にも、我々にしか出来ない事、やれることは沢山あると思います）

そんなわけでカカオニュースが止まっていた、少々長い言い訳も終わりになります。

昨年のコロナから今までの経験を日本の皆様やチョコレート業界に少しでもフィードバックするべく、再度小さい事ですが、カカオニュースの配信を再開していきたいと思います。

参考になる情報ばかりではないかもしれませんが、日本のカカオ、チョコレート業界に関わる皆様や、関心のある方々、チョコレートが好きな方々に少しでもお役に立てるものになれるようにしていければと思います。